【書式Ａ】　施設名 文化財活用センター・東京国立博物館　処理番号 1510HA

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）国内外の博物館活動への寄与　①国内外の博物館等への有形文化財の貸与

【年度計画】
（文化財活用センター・４館共通）
1)国内外の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。
2)文化財活用センターが中心となり、収蔵品貸与の促進を図るための取組を行う。
（東京国立博物館）
1)各地域ゆかりの文化財の平常展示のため、引き続き長期貸与を促進する。
2)海外の美術館・博物館等で開催する展覧会へ貸与する（海外交流展出品作品を含む）。
3)地方公共団体の博物館等に収蔵品を貸与するとともに文化財活用センターと連携し、地方への貸与を促進する。

担当部課	学芸研究部列品管理課 文化財活用センター貸与促進担当	事業責任者	課長　救仁郷秀明

【実績・成果】
（文化財活用センター・4館共通）
1)国内の博物館等116機関に864件の作品を貸与した。
2)文化財活用センターは東京国立博物館とともに共同で、日本及びアジアの歴史・文化への理解を進めるとともに、地方創生・観光振興に寄与することを目指し、開催館までの往復輸送費・保険料・出張旅費・広報費を支出する東京国立博物館収蔵品貸与促進事業を実施した。
（東京国立博物館）
1)長崎歴史文化博物館の平常展示のため、年度を越えた長期貸与を実施した。
2)海外の博物館等14機関に90件の作品を貸与した。
3)文化財活用センターと共同で東京国立博物館収蔵品貸与促進事業を実施し、5機関に71件の作品を貸与した。

【補足事項】
（文化財活用センター・4館共通）
2)大規模貸与として高岡市美術館に貸し出した重要文化財を含む32件の作品の輸送費・保険料等を支出した。小規模貸与として4機関に貸し出した39件の作品の輸送費・保険料等を支出した。また大規模貸与の対象の展覧会のための広報費の一部を支出した。
（東京国立博物館）
2)米国・メトロポリタン美術館「源氏物語の世界」展に5件、中国国家博物館「シルクロード国立博物館館蔵文物精品」展に12件、米国・クリーブランド美術館「神－日本美術における神性の発見」展に1件、米国・ナショナル・ギャラリー・オブ・アート「日本美術に見る動物の姿　The Life of Animals in Japanese Art」展に28件、中国国家博物館「アジア文明連合展覧会」展に11件、中国・上海博物館「十五世紀中期景徳鎮磁器」展に2件、中国・故宮博物院「世界の龍泉：龍泉青磁とグローバライゼーション」展に8件、米国・ロサンゼルス・カウンティ美術館「日本美術に見る動物の姿　The Life of Animals in Japanese Art」展に3件、英国・大英博物館「Nara: sacred images from early Japan(奈良―日本の信仰と美のはじまり)」展に2件、中国・浙江省博物館「世界の龍泉：龍泉青磁とグローバライゼーション」展に8件、韓国・国立中央博物館特別展「加耶本性－剣と弦」展に4件、中国・蘇州博物館「須静観止－蘇州潘氏の収蔵」展に2件、ヴィクトリア＆アルバート博物館「Kimono: Kyoto to Catwalk」に2件を貸与した。
3)大規模貸与事業として高岡市美術館「明治金工の威風 ―高岡の名品、同時代の名工」（会期: 9月20日～10月20日）に32件を貸与し、小規模貸与事業として三重県立美術館「没後200年記念 増山雪斎展」（会期：31年4月20日～元年6月16日）に10件、三内丸山遺跡センター「あおもり土偶展」（会期：7月20日～9月1日）に5件、キリシタン関係遺品特化型貸与事業として、大分県立先哲史料館「RWC2019記念・開館25周年記念 大分のキリスト教史」（会期：9月21日～11月4日）に17件、千葉県立美術館「令和元年度アート・コレクション＋近代洋画の先駆者　浅井忠11―トーハクの名画がやってきた！」に7件を貸与した。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
貸与件数	954件	－	－		991	946	914	1,355
うち国内の貸与件数	864件	－	－		909	750	783	1,225
うち国外の貸与件数	90件	－	－		82	196	131	130

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	国内外の博物館等130機関に954件の作品を貸与した。貸与促進事業も順調に推移し、全体としてほぼ例年なみの貸与を行うことができ、内外の博物館の展示の充実に寄与することができた。

【中期計画記載事項】
収蔵品については、その保管・展示状況、コンディション、貸出先の施設の状況等を総合的に勘案しつつ、国内外の博物館等の要請に応じて、展示等の充実に寄与するため、貸与を実施する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	貸与促進事業は、貸与件数が 30 年度の 61 件から増加し 71 件となり、また実施地域やテーマも広がり、着実に展開している。 貸与全体としては、30 年度を例外とすれば、国内の貸与件数は 28 年度・29 年度の実績を上回っており、博物館活動への寄与という役割を着実に果たしているととらえることができる。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1510B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）国内外の博物館活動への寄与　①国内外の博物館等への有形文化財の貸与

【年度計画】
（文化財活用センター・４館共通）
1)国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。
2)文化財活用センターが中心となり、収蔵品貸与の促進を図るための取組を行う。
（京都国立博物館）
1)京都国立近代美術館及び大阪市立美術館の平常展示のため、引き続き長期貸与する。

担当部課	学芸部	事業責任者	列品管理室長　羽田聡

【実績・成果】
（４館共通）
1)国内外あわせ61機関（機関は延べ件数）に対し、計348件の収蔵品・寄託品貸与を行った。
館蔵品の貸与件数：217件
寄託品の貸与件数：131件
計：348件
（京都国立博物館）
1)年度計画にはなかったが、元年度より新たに兵庫県立考古博物館、たつの市立龍野歴史文化資料館、鳥取県立博物館の計3館との間で考古資料の相互貸借事業を実施した。

【補足事項】
1)収蔵品の貸与に際しては、貸出先施設の保管体制、警備体制、虫害対策等を総合的に判断しながら先方の要望に応じた。
具体的な例としては、館蔵品である「流水に帆蒔絵小鼓胴」をICOM京都大会の開会式において能「石橋」を演ずるに際し、大倉流小鼓方16世宗家・大倉源次郎氏が使用するために貸与する事で、大会の成功に貢献する事が出来た。

流水に帆蒔絵小鼓胴

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
貸与件数	348件	－	－		303	367	349	289
うち国内の貸与件数	347件	－	－		293	365	336	274
うち国外の貸与件数	1件	－	－		10	2	13	15

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	年度計画に基づき、収蔵品の保存状況と貸出先のコンディションを勘案しながら、国宝・重要文化財を含む収蔵品・寄託品を国内の博物館に中心に貸与を実施した。 また、元年度より考古資料の相互貸借事業を実施し、各地域で出土した作品を各地域にある博物館にて展示させる事が出来た。

【中期計画記載事項】
収蔵品については、その保管・展示状況、コンディション、貸出先の施設の状況等を総合的に勘案しつつ、国内外の博物館等の要請に応じて、展示等の充実に寄与するため、貸与を実施する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	内外の博物館等の要請に応じて、作品貸与を実施する事ができている。 また、収蔵品の保管・展示状況と貸出先のコンディションを勘案しながら貸与先の博物館等に対しての展示・保管環境等を十分に考慮したうえで可能な範囲で要請に応じる事ができている。 さらに、海外の貸与先についても十分に審議を重ねた上で収蔵品の貸与を行う計画ができているので、今後もより当館の持つ日本の文化を海外にも発信できるようにしていきたい。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1510C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）国内外の博物館活動への寄与　①国内外の博物館等への有形文化財の貸与

【年度計画】
（文化財活用センター・４館共通）
1)国内外の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。
2)文化財活用センターが中心となり、収蔵品貸与の促進を図るための取組を行う。
（奈良国立博物館）
1)国内の公私立博物館と考古資料の相互貸借を実施する。

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤栄

【実績・成果】
（４館共通）
1)収蔵品と寄託品を国内合わせて 32 の機関に計 136 件の貸出を行った。
2)文化財活用センターの進める文化財貸与事業の規定整備に協力し、列品貸与のスムーズな仕組みを整えた。
（奈良国立博物館）
1)京都府立山城郷土資料館、大阪大学総合学術博物館、茨城県立歴史館及び群馬県立歴史博物館とで考古資料の相互貸借事業を実施した。

【補足事項】
（４館共通）
1）収蔵品・寄託品の貸与
・貸与先32機関の内訳
国立6件、公立21件、私立4件、海外1件
・貸与作品136件の内訳
国宝9件（館蔵品2件、寄託品7件）
重要文化財34件（館蔵品7件、寄託品27件）
その他93件（館蔵品45件、寄託品48件）
貸与した館蔵品54件の内訳
（絵画8件、彫刻9件、書跡1件、工芸14件、考古22件）
貸与した寄託品82件の内訳
（絵画47件、彫刻16件、書跡6件、工芸9件、考古3件、歴史資料1件）

貸与品：重要文化財 山王十社本
地懸仏 一面　館蔵品

（奈良国立博物館）
1）相互貸借事業における貸与・借用品数
・京都府立山城郷土資料館
館蔵品：1件（北和城南古墳出土の石釧、鍬形石、銅鏡など13点）が企画展「木津川流域の首長墳」で展示された。
借用品：3件（円筒埴輪棺、ジョッキ形須恵器など）を当館の名品展考古部門の展示で活用した。
・大阪大学総合学術博物館
館蔵品：7件（花禽双鸞八花鏡など）が大阪大学総合学術博物館小企画展で展示された。
借用品：16件（野中古墳出土甲冑類）を当館の名品展考古部門の展示で活用した。
・茨城県立歴史館
館蔵品：2件（埴輪武人像、灰釉骨蔵器など）が常設展「茨城の歴史をさぐる」で展示された。
借用品：3件（人面付土器、土偶など）を当館の名品展考古部門の展示で活用した。
・群馬県県立歴史博物館
館蔵品：1件（盛装男子埴輪）が企画展「集まれ！ぐんまのはにわたち」で展示された。
借用品：1件（土製耳飾）を当館の名品展考古部門の展示で活用した。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
貸与件数	136件	－	－		145	165	210	134
うち国内の貸与件数	133件	－	－		137	161	205	109
うち国外の貸与件数	3件	－	－		8	4	5	25

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	作品の貸与件数は例年に劣らず良好であり、各地の博物館・美術館の展覧会に大きく貢献することができた。考古資料の相互貸借事業は例年以上に多くの作品を「里帰り」させ、かつ地方文化財を奈良の地で広く紹介することができた。

【中期計画記載事項】
収蔵品については、その保管・展示状況、コンディション、貸出先の施設の状況等を総合的に勘案しつつ、国内外の博物館等の要請に応じて、展示等の充実に寄与するため、貸与を実施する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：B	中期計画に基づき、作品のコンディションや相手先の要望を考慮して柔軟な対応を行い、海外を含む各地の博物館・美術館の展覧会の成功に貢献することができた。貸与件数も数年来の水準を維持しており、中期計画の進展は順調である。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1510D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）国内外の博物館活動への寄与　①国内外の博物館等への有形文化財の貸与

【年度計画】
（文化財活用センター・４館共通）
1)国内の博物館等で開催する展覧会等へ収蔵品を貸与する。
2)文化財活用センターが中心となり、収蔵品貸与の促進を図るため取組を行う。

担当部課	学芸部文化財課	事業責任者	課長　原田あゆみ

【実績・成果】
（４館共通）
1)国内21機関・海外2機関に収蔵品および寄託品を貸与した。
（機関数は延べ数。東京国立博物館からの長期管理換品を含む。）

【補足事項】
（九州国立博物館）
国内の貸与先機関は、下記の通りである。（※印は30年度から元年度にかけて貸与）

・国及び国立機関
　文化庁※、国立民族学博物館、国立新美術館

・地方公共団体及び公立博物館・美術館
（福岡県内）
　甘木市歴史資料館、伊都国歴史博物館、小郡市埋蔵文化財センター、求菩提資料館、太宰府市文化ふれあい館※、大野城心のふるさと館、福岡市博物館
（福岡県外）
　岡山県立美術館※、山口県立美術館※、福島県立美術館※、横浜美術館、下関市立考古博物館

・私立博物館・美術館及び私立団体
　公益財団法人古都大宰府保存協会大宰府展示館、徳川美術館、公益財団法人佐川美術館、中之島香雪美術館、五島美術館

海外の貸与先機関は、下記のとおりである。
　韓国国立晋州博物館、英国ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館

英国ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館
「KIMONO:KYOTO TO CATWALK」展出品
格子絣更紗間着

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
貸与件数	50件	－	－		90	83	71	80
うち国内の貸与件数	44件	－	－		88	72	67	80
うち国外の貸与件数	6件	－	－		2	11	4	0

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	公私立の博物館等の要請に対し、適切に貸与を実施した。

【中期計画記載事項】
　収蔵品については、その保管・展示状況、コンディション、貸出先の施設の状況等を総合的に勘案しつつ、国内外の博物館等の要請に応じて、展示等の充実に寄与するため、貸与を実施する。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	要請先施設の状況を総合的に勘案して、適切に貸与を実施し、公私立博物館等の展示の充実に寄与することができた。2年度以降も、国内外の博物館の展覧会に積極的に協力する。

【書式Ａ】　施設名 国立文化財機構　処理番号 1520H-1

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）②国内外の博物館等への援助・助言等

【年度計画】
（4館共通）
1)博物館・美術館及び社寺等における展示・収蔵の安全対策に関する調査・研究を行い、助言・研究会の開催等を通して、文化財防災に貢献する。

担当部課	東京国立博物館学芸研究部 京都国立博物館学芸部 文化財防災ネットワーク推進室	事業責任者	部長　田沢裕賀 部長　朝賀浩 室長　岡田健

【実績・成果】※［ ］内は、実施担当の施設・部署を表す。
（４館共通）
1)
a．ミュージアムにおける展示の安全対策に関する調査[東京国立博物館]
国内外の博物館・美術館において、展示作品に対してどのような安全対策が講じられているか把握・整理することを目的とし、災害リスク・立地条件などを踏まえた上で、現地調査、情報収集、普及活動を実施した。
・国内外の博物館・美術館を視察し、展示ケースや展示手法の安全性について現地調査を行った。訪問先の博物館・美術館において、防災対策の現状と課題について協議、意見交換を実施した。
　支持具の安全対策に関する調査（4月、5月：東京国立博物館）
　展示の安全対策に関する情報交換（5月：国立アイヌ民族博物館設立準備室・北海道大学内）
　山形県沖地震の被害調査、展示の安全対策に関する情報交換等（7月：致道博物館、村上市郷土資料館、村上市教育委員会）
　水害対策に関する情報収集、意見交換等（8月：バンコク国立博物館、タイ銀行博物館、タイ王国文化省芸術局等）
　展示の安全対策に関する情報収集、意見交換等（1月：ハンガリー国立博物館、ブダペスト歴史博物館等）
・免震装置を備えた展示ケースの加振実験を実施し、性能評価および技術的課題の検討を行った。
　加振実験打合せ・準備（9月：大林組 技術研究所）、加振実験本番（10月：大林組 技術研究所）
・研究機関や展示会を訪問し、展示の安全対策に関連する情報収集および意見交換を行った。
　加振実験に関する情報収集、意見交換（5月：東京大学生産技術研究所）
　オフィス防災EXPO／防災設備に関する情報収集（5月：青海展示棟）
・普及啓発の一環として、関連学会において研究成果を発表した。
　日本展示学会第38回研究大会（6月：大阪芸術大学スカイキャンパス）
b．社寺等における収蔵文化財の安全対策に関する研究[京都国立博物館]
立体作品に関する免震台の適切な活用、転倒防止対策等の防災対策に関する調査研究を目的とし、立体作品の安定性に関する実験を実施した。
・立体作品と免震台の適切な活用、転倒防止対策に関する調査・研究
　昨年度行った起震車による木造十大弟子立像（京博蔵・模造、高さ55㎝）の振動実験から得られた解析データ等を利用し、仏像の三次元データを使用した転倒パターンのシミュレーションを作成した。仏像計測の結果をうけ、黒釉兎毫斑碗（禾目天目） 建窯（京博蔵、高さ6.9㎝）のシミュレーション作成にも着手した。(8月～2月)
・落下防止用資材の強度試験：KICKで使用している落下防止ネットの強度試験を実施した。(3月)
c．博物館・美術館における展示・収蔵の安全対策に関する協議会の開催[東京国立博物館]
・展示・収蔵関連の設備メーカー、美術品梱包輸送会社、防災設備メーカーから参加を得て、博物館・美術館における防火対策及び水害対策の研究協議会を実施した。研究協議会に先立って、ガス消火実験の見学を行った。
　ガス消火実験見学（12月：能美テクノリウム　メヌマ）
　博物館・美術館における展示・収蔵の安全対策に関する研究協議会（第２回）(2月4日：東京国立博物館)、14団体（29名）参加

【補足事項】

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
援助・助言等の件数	9件	－	－		－	－	－	20

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 ・博物館・美術館の収蔵施設における防災対策、展示環境における防災対策、社寺等における防災対策について、調査研究の実績をあげることができた。学会発表、関係企業担当者等を集めた研究協議会の開催など、専門家との成果の共有に努めた。 ・全国の博物館・美術館や社寺等の文化財所有者への情報提供と貢献を果たすための具体的な方法を考える段階に進まなければならない。

【中期計画記載事項】
国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努める。

【中期計画に対する評価】 評定：Ａ	【判定根拠、課題と対応】 ・国内外の博物館・美術館へ調査実施と意見交換を行い、順調に調査研究の基盤を構築している。これまで情報共有が図られていなかった関係企業の理解を得つつある。 ・協議会の開催、現場視察等を通じて、参加企業が現場で直面している技術的課題が明らかになってきた。その中から特に重要度の高い課題を抽出して、集中的に検討を行う必要がある。

【書式Ａ】　施設名 文化財活用センター　処理番号 1520H-2

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）②国内外の博物館等への援助・助言等

【年度計画】
（文化財活用センター）
1)全国の博物館等文化財保存施設における良好な保存環境維持・管理に資するための助言や協力、また研修会等を通じての周知活動を行う。

担当部課	本部文化財活用センター	事業責任者	保存担当課長　冨坂賢

【実績・成果】
（文化財活用センター）
イ　文化財保護法第53条に基づく、所有者以外による国宝・重要文化財の公開を予定している55施設を対象として、保存環境調査を行った。うち、35施設については、調査完了後に環境調査報告書を提出し、11施設に関しては公開に問題ない環境であることの簡易的な確認を行った。その他は継続中である。
ロ　公開承認施設の申請を予定している7施設に対して保存環境調査を行った。現在までに4施設の調査を完了し、報告書を提出した。
ハ　2年度貸与促進事業に応募した9施設について、文化財管理、保存体制についての評価を行った。うち、貸与が内定した6施設の具体的な保存環境調査に着手した。
二　東京文化財研究所との共催による、元年度「美術館・博物館等保存担当学芸員研修」を7月8日～7月19日の2週間開催した。前半週を文化財活用センターが担当し、基本的な保存環境管理に関する講義や実習を行った（参加者31人）。
ホ　資料保存専従の学芸員や研究者を対象とした「保存環境調査・管理に関する講習会」を7月31日、および12月12日に実施した

【補足事項】
イ、ロ
これらの調査は、文化庁からの協力依頼（31年4月3日付 31文財一第5号）に基づいて文化財活用センターが担い、文化財保護法53条に基づく公開や、公開承認施設申請を予定する施設からの依頼によって行ったものである。
ニ、ホ
「美術館・博物館等保存担当学芸員研修」は初学者向け、「保存環境調査・管理に関する講習会」を上級者向け研修と位置付けて実施した。
ホ
7/31 第1回保存環境調査・管理に関する講習会 −北川式検知管による空気環境調査と評価－(参加者18人)
12/12 第2回保存環境調査・管理に関する講習会 −資料保存用資材としての中性紙－(参加者17人)

12/12 第 2 回保存環境調査・管理に関する講習会

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
援助・助言等の件数	68件	－	－		－	－	－	20

【年度計画に対する総合評価】 評定：A	【判定根拠、課題と対応】 所有者から借用した文化財を公開する全国の公私立博物館・美術館等が良好な保存環境の維持管理ができるよう、現状調査を行い、また必要に応じて助言や改善協力を行った。また、保存管理に関するレベル別の研修会、講習会を行うことにより、様々な専門性を有する学芸員の資質向上に大きく寄与した。2 年度も、引き続き援助・助言に取り組み、また科学技術の動向に応じた研修会等による情報提供や人材育成の充実に努める。

【中期計画記載事項】
国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努める。

【中期計画に対する評価】 評定：B	【判定根拠、課題と対応】 全国の博物館・美術館等が安全に文化財を活用するための保存管理の質的向上に、援助・助言、また研修会を通じて大きく貢献し、順調に事業を進めることができた。今後も依頼件数が増加するものと予想され、効率的、かつ実効性の高い対応に努める。

【書式Ａ】　施設名 東京国立博物館　処理番号 1520A

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）②国内外の博物館等への援助・助言等

【年度計画】
（４館共通）
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。
2)博物館・美術館及び社寺等における展示・収蔵の安全対策に関する調査・研究を行い、助言・研究会の開催を通して、文化財等防災に貢献する。
（東京国立博物館）
1)新規貸与館に対する環境調査を実施し、文化財活用センターと協力して指導助言を行う。

担当部課	学芸研究部 総務部	事業責任者	部長　田沢裕賀 部長　山下登

【実績・成果】
1)公私立博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等に対し、139件の援助・助言を行った。
・文化庁、地方公共団体、公私立博物館等の文化財関係事業に関する助言・協力　43件
　文化庁、栃木県小山市、愛知県教育委員会、文京区立森鴎外記念館、泉屋博古館、韓国国立慶州博物館他
・文化財の展示・展覧会の運営に関する援助・助言　20件
　福島県立博物館、港区立郷土歴史館、仏教芸術学会、国立アイヌ民族博物館設立準備室、長崎県浦上教会、ダマスカス国立博物館他
・文化財の調査・保存・修理に関する助言・指導　27件
　鎌倉市教育委員会、東京芸術大学、大手前大学史学研究所、法隆寺、イラクズィー・カール大学他
・講演・セミナー・審査等での協力　31件
　文化庁、岡山県瀬戸内市、茨城県博物館協会、宮内庁三の丸尚蔵館、東北芸術工科大学、公益財団法人五島美術館、中国国家文物局他
・博物館等の運営・事業・環境に関する援助・助言　18件
　鹿児島市立美術館、公益財団法人日本博物館協会、公益財団法人千葉市教育振興財団、大倉集古館、サントリー美術館、韓国国立中央博物館他

（東京国立博物館）
1)新規貸与館に対する環境調査を実施し、指導助言を行った。
　環境調査を実施した新規貸与館は、21館。（参考：文化財活用センター貸与促進事業関係　3件）

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
援助・助言等の件数	139件	－	－		139	120	138	131

【年度計画に対する総合評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 例年通り、公私立博物館・美術館で開催される展覧会や運営等について、139 件の援助・助言を行い、新規貸与館 21 ヶ所への環境調査を行うことができた。文化財の保存と活用について、専門的見地から適切に対応することで年度計画を達成することができた。

【中期計画記載事項】
国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努める。

【中期計画に対する評価】 評定：Ｂ	【判定根拠、課題と対応】 国内外からの要請に応じた、技術的・専門的な援助・助言を適切に実施できた。2 年度以降も、可能な限り積極的に対応を心がけ、文化財の保存活用に寄与していきたい。

【書式Ａ】　施設名 京都国立博物館　処理番号 1520B

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）国内外の博物館活動への寄与　②国内外の博物館等への援助・助言等

【年度計画】
（４館共通）
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。
2)博物館・美術館及び寺社等における展示・収蔵の安全対策に関する調査・研究を行い、助言・研究会の開催等を通して、文化財等防災に貢献する。

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　栗原祐司

【実績・成果】
1)
・文化庁、地方公共団体、公私立博物館等の文化財関係事業に関する助言・協力（各種委員会等の委員としての助言を含む）（52件）
・文化財の展示・展覧会の運営に関する援助・助言（13件）
・文化財の調査・保存・修理に関する助言・指導（24件）
・講演・セミナー・審査等での協力（56件）
・博物館等の運営・事業・環境に関する援助・助言（7件）
2)
・諸外国の研究者を対象とした国際研修等の機会を通じ、当館における展示・収蔵施設の安全対策への取り組みについて情報発信・助言等をおこなった。実際の防災システムや防災に関する調査研究への取り組み等の紹介を通じて、各国の博物館・美術館での対策へ活用されることを期待しているが、負担の大きいシステム全体よりも、細かい対策の充実・蓄積に関する関心が高かった。
・元年度は窒素ガスを用いた消火設備、立体物の転倒防止対策に関する調査等を実施した。展示・収蔵対策に関する調査・研究としては、立体物の振動と転倒について、免震台の有無や重心位置などを変化させて、それぞれのシミュレーションをおこなっている。研修会等はICOM-DRM委員会ワークショップ、UNESCOチェアITC-DRMCH、イラン人専門家研修（イラン国立博物館他）等の機会を得て実施した。

【補足事項】
1)
・文化庁、地方公共団体、公私立博物館等の文化財関係事業に関する助言・協力
　文化庁買取委員など官公庁の各種委員会への助言・協力
　静岡県、鳥取県、滋賀県、福井県などの地方公共団体の文化財保護審議会委員等として助言
　祇園山傘連合会、法隆寺金堂壁画保存活用委員会、日本文化財科学会などの各種団体への助言
　ICOM京都大会に関連する各種委員会へ委員として協力、など
・文化財の展示・展覧会の運営に関する援助・助言
　サントリー美術館などの国内の博物館・美術館などへの展示指導
　メトロポリタン美術館で開催された「源氏物語展」における作品返却協力、など
・文化財の調査・保存・修理に関する助言・指導
　鬼北町教育委員会などへの調査指導
　アジア水中考古学研究所などへの調査協力、など
・講演・セミナー・審査等での協力
　文化庁、NHK文化センターなどへのセミナーや研修講師として協力
　京都大学、奈良大学、近畿大学など大学での非常勤講師として協力、など
・博物館等の運営・事業・環境に関する援助・助言
　文化庁への国立アイヌ民族博物館における展示解説の多言語化の支援、など

ICOM-DRM 委員会
ワークショップ風景

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
援助・助言等の件数	152件	－	－		65	112	168	140

【年度計画に対する総合評価】
評定：Ｂ

【判定根拠、課題と対応】
国内外の様々な機関の要請に応じて、様々な職員がそれぞれの専門性に応じて152件の援助、助言、指導及び協力を行った。元年度も様々な機関からの要請を受け、他館への展示指導や多言語化業務など専門性の高い分野での協力を行った。
文化財防災に関して、諸外国への発信としては、多国籍の研究者へ向けた発信ができた。研究者からの応答としては、防災システム等の原理は理解できたが、財政負担の大きい防災システム等は、実施の導入は困難であるという意見が多い。しかし小型なシステムや機器については非常に積極的に受け取られているため、諸事情に適した幅広い防災システムに関する情報発信の強化が必要である。

【中期計画記載事項】
国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努める。

【中期計画に対する評価】
評定：Ａ

【判定根拠、課題と対応】
中期計画に基づき、国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行った。とりわけ、9月に開催されたICOM京都大会においては、準備段階から様々な援助を行うとともに、大会期間中も多くの職員を派遣し、世界中の博物館関係者との広域なネットワーク形成に導いた。
今後はさらに文化財防災ネットワーク推進室と連携協力して活動していくとともに、当館の防災対策に関する取り組みについては、国内外の研究者との情報交換、人的交流を通じて広く発信していく必要がある。さらにシミュレーション等で得られたデータをもとに、簡便に実施できる減災対策に関する基礎的研究を継続して実施していく。

【書式Ａ】　施設名 奈良国立博物館　処理番号 1520C

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）国内外の博物館活動への寄与　②国内外の博物館等への援助・助言等

【年度計画】
（４館共通）
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。
2)博物館・美術館及び寺社等における展示・収蔵の安全対策に関する調査・研究を行い、助言・研究会の開催等を通して、文化財等防災に貢献する。

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　内藤栄

【実績・成果】
（４館共通）
1）公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を、64件実施した。
2）博物館・美術館及び寺社等における展示・収蔵の安全対策に関して2件の講師派遣を行い、文化財防災の意識向上に役立てた。

【補足事項】
1）援助・助言の内訳は、以下のとおり。
①クリーブランド美術館（米国）での特別展での展示補助など、展示に関する学術・技術的援助　5件
②建替工事が進む藤田美術館（大阪市）の所蔵品の保管に関する助言など、専門的知識による助言・援助　17件
③上海博物館（中国）で開催の唐招提寺展にかかる講演会など、講義・講演　17件
④法隆寺金堂壁画保存活用委員会に委員として出席するなど、会議出席・委員委嘱　25件
2）講師派遣を行った研修会は、以下のとおり。
①愛知県文化財建造物担当者課題研修会（11月14日）
②三重県文化財講習会（11月27日）

上海博物館（中国）で開催の唐招提寺展
展示替え作業風景（2年1月13日）

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
援助・助言等の件数	66 件	－	－		58	62	72	71

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	援助・助言の件数は例年並みで、国内の公私立博物館・美術館にとどまらず、海外の機関に対しても学術・技術的に援助するなど、様々な分野で実施できた。また、文化財防災分野では、当館が文化財防災ネットワーク形成を担当している中部・近畿地方の2県の研修会に講師を派遣し、文化財等の防災に対する意識向上に貢献できた。2年度以降も現在の体制を継続する。

【中期計画記載事項】
国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努める。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	国内・国外を問わず、各機関からの要請に応じた専門的・技術的な援助・助言を着実に実施できた。特に当館が得手とする仏教美術の分野では、海外の展覧会にも全面的に協力し、その副産物である人的ネットワークの形成も貴重な財産となるであろう。加えて、文化財防災関係でも都道府県の研修会に講師を派遣し、自治体担当者とのネットワーク形成に努めた。中期計画の達成に向け順調に推移している。

【書式Ａ】　施設名 九州国立博物館　処理番号 1520D

中項目	１．　有形文化財の保存と継承並びに有形文化財を活用した歴史・伝統文化の国内外への発信
事業名	（５）国内外の博物館活動への寄与　②国内外の博物館等への援助・助言等

【年度計画】
（４館共通）
1)公私立の博物館・美術館等が開催する展覧会及び運営等の援助・助言を行う。
2)博物館・美術館及び寺社等における展示・収蔵の安全対策に関する調査・研究を行い、助言・研修会の開催等を通して、文化財等防災に貢献する。
（九州国立博物館）
1)地域の自治体等と連携し、公私立博物館・美術館等職員のための古文書保存に関する専門講座を開催する。
2)公私立博物館・美術館等職員のためのIPM（総合的有害生物管理）に関する専門講座を開催する。

担当部課	学芸部	事業責任者	部長　小泉惠英

【実績・成果】
（4館共通）
1)以下のとおり、公私立の博物館・美術館等に対する援助・助言を行い、年度計画どおり事業を実施できた。
・文化庁、地方公共団体、公私立博物館等の文化財関係事業に関する助言・協力（各種委員会等の委員としての助言を含む（43件））
・文化財の展示・展覧会の運営に関する援助・助言（4件）
・文化財の調査・保存・修理に関する助言・指導（10件）
・講演・セミナー・審査等での協力（21件）
・博物館等の運営・事業・環境に関する援助・助言（8件）
2)文化財防災ネットワーク推進事業セミナー「不動産文化財と動産文化財の防災－現状の課題と今後の連携に向けて－」を開催した。

10 月 24 日 IPM 研修の様子

（九州国立博物館）
1)古文書保存基礎講座を開催した。(2年1月24日、25日)
2)IPMセミナー、IPM研修及び館内向けIPM研修を実施した。
IPMセミナーは、5月にストックホルムにて開催されたIPMの国際コンファレンスの内容についての報告、東京文化財研究所からの文化財の微生物調査に関する最新の知見についての報告、また当館のIPMの活動の最新情報についての報告を含む専門講座として開催した。

【補足事項】
（九州国立博物館）
2)
・5月15日に、館内職員、ボランティア向けのIPM研修を実施した（会場：当館、受講人数：20人）。
・10月23日にIPMセミナーを開催した（会場：当館、参加人数：150人）。
・10月24日、25日にIPM研修を実施した（会場：当館、受講人数：34人）。
・2年1月24日、25日に福岡県教育委員会、筑紫野市歴史博物館と連携し、古文書保存基礎講座を開催した（当館、筑紫野市歴史博物館、参加人数：24人）。

【定量的評価】項目	元年度実績	目標値	評定	経年変化	27	28	29	30
援助・助言等の件数	86件	－	－		67	87	105	72

【年度計画に対する総合評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	九州地域だけでなく日本全国の要請に対応し、86件の援助・助言を行った。また、文化財修理やIPMなど当館の特色である事業の普及啓発について、連携機関と協力し研修を実施することができた。

【中期計画記載事項】
国内外の博物館等からの要請に応じて、専門的・技術的な援助・助言を行うとともに、博物館関係者の情報交換・人的・文化財等防災ネットワークの形成等に努める。

【中期計画に対する評価】	【判定根拠、課題と対応】
評定：Ｂ	元年度も中期計画に従い、当館研究員の専門性を活かし国内外の博物館等からの要請に応じて指導、助言を行った。毎年新しい内容を取り入れた研修会を開催するなど、地域の核としての博物館の役割を果たしている。今後のニーズも見据えながら、これからもセミナー、研修等を実施していきたい。